

令和3年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和3年3月22日
函館市立昭和小学校

1 本年度の重点教育目標

心ときめかせ、いきいき行動する子をめざして
～気づき・考え・行動する子の育成～

2 本年度の取組の重点

- 1 学びの基盤を支える昭和スタンダードの定着（「学習の約束」の浸透と原則の重視）
- 2 授業力の向上（学習指導要領に基づいた指導の充実、校内研修の充実、TT指導の充実、学力向上の取組）
- 3 学力の向上（諸調査結果を踏まえた教育課程の工夫、基礎・基本の定着）
- 4 主体的に活動する子供を育むための工夫（課題意識をもち自分たちで解決しようとする子の育成）
- 5 豊かな心と体を育むための工夫（自分たちで学校生活をより楽しく豊かにしようとする子の育成）

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見(改善策など)
1 学びの基盤を支える昭和スタンダードの定着	「学習の約束」を再確認し、全クラスが落ち着いた雰囲気の中で自分の力を発揮できるよう学習規律の徹底を図ることができたか。	a	児童アンケートから昭和スタンダードの定着が図られていることが見られた。今後も継続していく。	A	A	・校内及び小中間でつながりある指導を進めていること大変すばらしいです。 ・学習の参観の機会がなかったのでスタンダードの評価をしづらかった。
	小・中学校で取り組む学習規律について、「そろえる」部分の指導の積み重ねができたか。	a	「昭和スタンダード」により「そろえる」指導ができた。	A	A	
2 授業力の向上	学習指導要領の趣旨に即した授業改善を図り、深い学びに導く授業の構築を図ることができたか。	b	深い学びにつながる授業実践と研修の機会を大切にしていく。	A	A	・子供たちが自ら学んでいく力を育む授業力向上がますます求められていきますのでよろしく願っています。 ・中学進学に向けて学習の取り組み方の意向を意識した方がよいと思います。家庭への啓発が必要だと思っています。
	言語活動の充実を図り、主体的で深い学びの実現を目指した実践的研究を推進できたか。	a	校内研修により共通理解のもと仮説の検証ができた。	A	A	・研修を深めている様子が分かります。一人一人の児童の学習歴に応じた多様な指導の在り方について今後とも深めることを期待しています。 ・深化の方向「幅を広げる」「深く掘り下げる」どちらでもテーマをもつとよいと思います。
3 学力の向上	学力テストや単元テスト、日常の小テスト等を踏まえ、学力向上を図ることができたか。	b	客観的なテストの結果をもとに成果と課題を洗い出し、改善に努めていく。	A	A	・児童館ではプリント、宿題を行う子が多いです。
	朝読書や家庭学習の充実を図り、学力向上の取組を充実させることができたか。	b	家庭にも啓発し、協働で主体的に学習に取り組む週間を育成する。	A	A	・児童が主体的に学習に取り組めるような動機付けとして、教師の発問の工夫が大切になると思います。
4 主体的に活動する子供を育むための工夫	安心・安全な生活を送れるよう、自分たちで考え実行できる子に育成できたか。	b	学級活動や児童会活動で、児童が主体的に活躍できる場を設定する。	A	A	・学校だより、児童館に来る子を通して良いアイデアをもって取り組む子が多いです。
	行事や学年合同での活動に、子供たちが自ら考え、主体的に活動できたか。	b	一人一人のよさを認め、協力して、よりよい活動を目指した指導に努める。	A	A	・特に下校時での出会いでは、挨拶がよくできています。表情が暗い子にはできるだけ声をかけるようにしています。 ・教師が認めるとともに他の児童もその子のよ

						さを認めるような場の作りが必要だと思います。
5 豊かな心と体を育むための工夫	自分に合った読書に親しむ子に育成できたか。	b	読書週間等の取組を充実させるとともに、家庭との連携を大切にし、進んで読書する習慣を身に付けさせる。	A	A	・本の読み聞かせが好きな子が多いです。コロナ禍だからこそ、多くの子が本を手にとってほしいです。 ・児童や先生方のおすすめの本の紹介の掲示が読書に親しむ良い機会になっていると思います。
	自分から進んで体力づくりをしようとする子に育成できたか。	a	縄跳び週間の継続の取組を行うことで、体力向上を図ることができた。	A	A	・縄跳びで年間を通していろいろな種目で取り組む機会を作るとよいと思います。 ・タブレットでも本を読むなど本を読むなど、また学習用アプリを使用するなどするとよいと思います、

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。